

## 編集後記

◆ 4月は新年度、学校ならば新学年・新学期です。1年に2度も気分を一新するような区切りがあるのは、ある意味で緊張感を与え、中だるみを防止します。今月号は、一般記事による構成となっています。さあ、新たな気持ちで張り切っていきましょう。

◆ 2月末に起こった南米チリの大地震では、その災害の規模に驚かされるのみならず、日本にも大津波の危険をもたらす、自然災害の怖さと日常の危機管理の重要性を教えています。被災地では大変な状況ですが、一刻も早い復興と平和を望むと共に、災害に対する対策や研究が一層進むことを期待したいものです。このような海岸域では、津波による影響だけでなく、サイクロン・台風などによる影響で被災することもあります。津波研究の専門家である七山氏は、バングラデシュのサイクロン被災地を観察して、そこで見られる地質現象を報告しています。沿岸域での被害の歴史を解明することで、対策研究に寄与していくことが期待されます。

◆ 元地質調査所員の山田氏は、明治の初期に作られた日本の予察地質図シリーズを紹介していますが、今回は東北部、東部に続く3回目、「予察中部地質図」です。ちょうど折り返し点を迎えました。多量な古文書を読みほどこき、調査研究の裏側を紹介しており、その努力に脱帽です。記事からは当時の先人達の並ならぬ苦勞と偉業がにじんできます。

◆ 須藤氏による「砂と砂浜の地域誌」も23回目となります。前回は東北地域でしたが、今回はズズウッと南下西進して、島根県です。宍道湖・中海と並ぶ美保湾に面した弓ヶ浜や島根半島を誌面と一緒に旅して回りましょう。美しさの象徴のような美保湾や弓ヶ浜

という名称や音の響きからは、ゆったりとした砂浜が連想されますが、現実是如何に。

◆ 続いて須藤氏は、これまでのフィールドノートを振り返り、3回目として京都のロウ石鉱床を紹介しています。熱変成を受けたロウ石鉱床がどのような産状となるかを、詳しく解説して下さっています。

◆ 恒例となった高橋氏による海外地質分野の話題で、今回は昨年秋の英文ニュース誌等からの紹介です。ウラン鉱床探査法の取り組みや水銀汚染、月の水、ベーリングアの話など、日本とは異なる話題に興味をそそられます。気楽にお読み下さい。

◆ さて、一年以上もお待たせしていた副見氏の「ライマン雑記」も、いよいよ最終章となりました。読者の中には待ち遠しく期待されていた方も多かったことでしょう。晩年のライマンと親しくなったエドマンズのライマン関係資料は、日記だけでも263資料もあったとのことで、この膨大な資料を整理して、晩年のライマンの人となり初めて記載された副見氏の才能とご努力に、改めて敬服致します。資料と出会ってから30年が経過したとのこと、本当にライフワークと呼ぶにふさわしい記事となっています。前述の山田氏とともに、このような大作となる記事を寄稿して下さいましたことに感謝申し上げます。

◆ 最後は、中嶋氏による書評です。古生物学の訳本の紹介ですが、初心者にも興味深い紹介となっていますので、気軽にお読み下さい。

◆ 今月の「春は桜梅桃李の花あり」(『古今著聞集』中の「草木」から)の如き多彩な記事を楽しみましたでしょうか。来月は「地学教育問題の現状と課題」と題した特集号を予定しています。(金井 豊)

### 地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 涉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第668号	2010年	4月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
2010年4月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 2010 Geological Survey of Japan